

(4) 活動の成果

- 林床が明るくなった。光が差し込むようになり、キンランやトンボソウ等が復活し始めている。
- これまでモウソウチクが密植していた間を飛び交うことができなかった林が、間伐により適当な間隔があくようになり、クロアゲハの飛翔なども見られるようになった。
- 竹林の中に辛うじて生き残っていたコナラやクスの大木は、下部に枝葉を持たずヒョロヒョロと上部のみに葉を繁らせている状態であった。現在、大木周辺のタケを伐採したことにより、この森のシンボルツリーとしての風格を備えつつある。
- 竹材を使ったガーデニング用の柵、七夕の季節の笹飾り、老人デイサービスでのミニ門松作り等に伐ったタケを欲しいという団体や小学校、老人ホームなどの申し出があり、その都度豊中市公園緑地課とも相談して提供している。タケを通じた人の輪が広がっている。
- とよなかアジェンダ21推進会自然部会でも、2003年度4月から島熊山の別な場所での竹林の手入れを行うことになっている。タケを間伐して健康な林を取り戻す活動が、他地域でも広がりだした。